

顔の見える総合相談・支援事業

令和6年度
各小学校区の取り組み推進状況

令和7(2025)年3月発行
箕面市社会福祉協議会

【令和6年度 各小学校区における取り組み推進状況一覧】

各小学校区において、地域のニーズを踏まえた課題解決の取り組みが進んでいます。令和6年度は第3期箕面市地域福祉活動計画の計画期間3年目であり、令和5年度から検討していた取り組みが実現したり、令和5年度以前に始まった取り組みが発展し次の展開につながった活動がありました。

各小学校区の令和6年度の取り組み状況を「実施」「継続」「発展」「検討中」「難航」「中断」の6つに分けてまとめました。

「実施」	… 令和6年度に新たに立ち上がった取り組み
「継続」	… 令和5年度以前から継続して取り組んでいる校区の重点的な取り組み
「発展」	… 令和5年度以前からの取り組みで、令和6年度に発展した取り組み
「検討中」	… 実現に向けて検討中や準備段階の取り組み
「難航」	… 検討するも、実現には課題があり行き詰まっている取り組み
「中断」	… 検討を取りやめた取り組み

<目次>

校区	状況	取り組み内容	ページ
彩都の丘	検討中	◆地域福祉を進める組織「地区福祉会」の立ち上げ ◆世代を超えた住民同士のつながりづくり～地域運動会の開催～ ◆子どもを中心とした取り組み ◆地域活動のことをもっと知ってもらう工夫	3
豊川北	発展	◆勝尾寺川さんぽグループから「あお人と自然をつなぐ会」が発足 ◆地域の居場所として「粟生みんなの居場所カフェ」が定着	5
	実施	◆とよきたオレンジカフェ（認知症カフェ）の立ち上げ	
	中断	◆移動困難者を支えるサービス	
東	継続	◆【居場所①】 地域のプラットフォームを目指す「公園で粟生(あお)～よ！」	7
	発展	◆【居場所②】移動コミュニティカフェ「お茶の間つどいの会」 ◆【団体連携】「小地域ごと」から「属性ごと」の交流へ	
	難航	◆【居場所③】外国人との交流を目指して	
	検討中	◆【居場所④】オレンジ（認知症）カフェの立ち上げ準備	
豊川南	実施	◆地域情報誌「とよみな地域だより」発行！（広報の充実） ◆福祉専門職と地域がつながる！交流会を開催（情報共有） テーマ①高齢者、テーマ②子育て ◆自治会・地域団体・福祉専門職がつながるために（小さな単位） ◆新たな居場所で、新たな出会いが・・・ あいあいカフェ、哲学カフェ、オレンジカフェ太陽	9
	発展	◆中学生の地域活動が熱い！（四中ワンピース）	

校区	状況	取り組み内容	ページ
萱野東	実施	◆自治会・地域団体・福祉専門職がつながるために！ ◆地域の防災力を高めるために・・・ ◆認知症の理解を広げる ◆ささえあいステーションは、より身近な場所で開設	11
萱野北	実施	◆認知症への理解促進に向けた取り組み ◆地域内のラックに相談情報を配架	13
	検討中	◆ささえカフェ・いきいきサロンの新たな可能性を考える	
萱野	継続	◆多様な地域の交流の場づくり	15
	発展	◆認知症を正しく理解し安心して暮らす	
	検討	◆小学生を対象にした「朝ごはんの会」の検討	
北	検討中	◆箕面2丁目ハザードエリアの高齢者避難を考える	17
	実施	◆子どもとのふれあい（放課後の居場所づくり）	
中	発展	◆さまざまな人が集う場に発展中の「稲つながり畑」	19
	継続	◆地域に根差した「いろは食堂」	
	実施	◆地域のみまもり名簿 「中小たすけあい名簿」	
	検討中	◆LINE 公式アカウント「なか小地区福祉会」	
箕面	検討中	◆農園を活用した住民同士の交流の場づくり	21
	実施	◆認知症の理解を深める場 オレンジ10番カフェ ◆子ども食堂を活用した若者の参加の場づくり	
	発展	◆障害者事業所との協働	
西	実施	◆認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して ◆西小地区福祉会ホームページを開設	23
	継続	◆楽しく子どもが集える居場所づくり	
	検討中	◆小さなエリアから防災を考える	
南	実施	◆小地域ささえあい会議 （桜井北エリア、桜ヶ丘エリア、桜井南エリア） ◆歌声広場がオープン	25
西南	実施	◆小地域ささえあい会議 （瀬川北エリア、瀬川南エリア、半町南エリア、半町北エリア） ◆にこにこカフェがオープン	27
	継続	◆西南地域団体交流会で地域活動を情報発信	
止々呂美	実施	◆子どもの居場所づくり ◆止々呂美エリアの高齢者のニーズ把握	29
	継続	◆参加者から運営スタッフへ	

■■■ 彩都の丘小校区 ■■■

彩都は2007年（平成19年）にグランドオープン。人口は約6,500人で15歳未満34%、15～64歳62%、65歳以上4%と子どもや現役世代が中心。令和5年度のささえあい推進会議では、新しい活動者が増えない悩みが共有され、活動を継続することに加え地域活動のことをもっと知ってもらう工夫について検討していくこととなった。

取り組み
検討中

【基本目標3】

(2)

地域福祉を進める組織「地区福祉会」の立ち上げ

彩都の丘学園校区では「青少年を守る会」をはじめ、「コミュニティセンター管理運営委員会」「地区防災委員会」「青少年指導員」「民生委員・児童委員」「防犯委員」などが様々な地域活動を実施しているが、そもそも福祉会が実施する小地域ネットワーク活動（見守りや居場所づくり）の内容と重なっているため、財源も含めて活動の枠組みの整理に着手した。令和6年5月に準備会メンバーを募集し7月から話し合いを開始。2か月ごとの会合で具体的な内容を検討してきた。

●すでに実施している活動（一部）

【世代間交流・イベント】

- ・彩都の丘まつり
- ・コミセンまつり
- ・校区たんけん

【集いの場・居場所】

- ・彩カフェ（コミセン、エルグレース）
- ・彩健康体操サークル
- ・彩の会（アウトドア活動、盆踊り会、懇親会等）

【その他】

- ・登下校の見守り
- ・老後のための勉強会
- ・防犯教室 など



●準備会での検討内容

【活動イメージ】

- ・当面は現在実施している活動を引き継ぐ。
- ・地区敬老事業
→独自の敬老事業を検討（現状は豊川北小地区福祉会主催の地区敬老会に参加）。
- ・子どもの居場所づくり、世代間交流、子育て支援活動 →検討
- ・福祉会だより発行 →検討

【組織イメージ】

- ・会の組織員には自治会、マンション管理組合役員のほか地域団体代表者の参加を依頼。
- ・設立準備会メンバーを含め、自薦他薦問わず地域福祉に関心のある方にも組織に参加してもらう。



令和7年4月 設立総会開催！

取り組み
検討中
【基本目標1】
(2)-1

世代を超えた住民同士のつながりづくり～地域運動会の開催～

【きっかけ】

彩都エリアは子育て世代が多いが、世代を超えた住民同士がつながるイベントとしての地域運動会を開催できないか。

【検討の経緯】

令和6年6月8日に設立準備委員会を開催し、主要な地域団体の関係者から賛同を得る。その後、8月3日の第1回実行委員会を皮切りに大会開催に向けて準備中。

日時：令和7年6月8日（日）
場所：彩都の丘学園 大グラウンド
※雨天中止、順延無し
内容：未就学児から大人まで参加できる種目を検討中。
(案) ①クイズ大会、②パン食い競争
③障害物競争、④親子競技、⑤地区対抗綱引き、⑥地区対抗リレー

子どもを中心とした取り組み

取り組み
検討中
【基本目標1】
(2)-1

●コミュニティ食堂「輪っこ」

家庭料理（手作り食）を提供＋異世代で一緒に食事することを目的に、茨木市側の彩都住民と一緒にコミュニティカフェ彩都で活動を開始。

⇒令和6年3月24日プレスタート。以後、ほぼ毎月開催。

⇒箕面市側での取り組みは今後検討。

●（仮称）子ども支援検討委員会（福祉会内に立ち上げ予定）

子育て支援については現状未整備。現役世代の意見を取り入れながら検討をすすめていく。



地域活動のことを もっと知ってもらう工夫

取り組み
検討中
【基本目標3】
(1)-1

令和5年度のささえあい推進会議では、「なかなか新しい活動者が増えないのが悩み」「継続して活動を行う中で賛同者や協力者を増やしていく」という意見があり、令和6年度は以下の工夫をした。

【工夫】

- ・地域運動会実行委員会に自治会やマンション管理組合から2名選出してもらい一緒に検討する。
- ・福祉会設立にあたり、自治会やマンション管理組合の役員会に民生委員・児童委員等が参加して趣旨説明に回った。

【福祉会設立趣旨説明を実施しての声】

- ・このような活動があると知らなかった。
- ・今は仕事が忙しいが、関心があるので仕事が落ち着いたらボランティアで協力したい。

＝地区福祉会とは？＝

箕面市社会福祉協議会（通称「社協」）の基本的構成組織として、身近な暮らしの範囲「小学校区」を単位に組織された任意団体。課題を抱えたまま孤立している人に早い段階で気づくため、住民相互の助け合い活動を実施。箕面市内では彩都の丘学園校区を除く13の小学校区で組織され活動している。詳細は、社協ホームページ、社協ブログを参照。



社協HP



社協ブログ

■■■ 豊川北小校区 ■■■

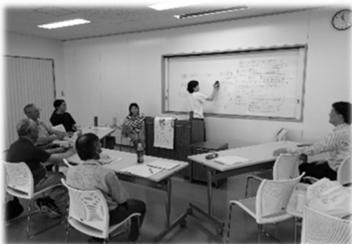
豊川北小校区は人口約9,200人、65歳以上が29.1%。校区内には急な坂が多く、買い物や通院のための移動に困難を感じる高齢者が増えている。西から東に向かって勝尾寺川が流れ、川に沿うように田畑が多く存在、中心部にも田畑が多く自然が豊かな校区。一方で、校区の東部で再開発が進んでいる。

勝尾寺川さんぽグループから「あお人と自然をつなぐ会」が発足

令和4年11月「栗生彩まるつど広場（地域交流イベント）」の参加者が令和5年3月に「勝尾寺川さんぽグループ」を組織し、令和5年8月に川遊びイベントを開催。活動が続ける中で、新たな住民参画を目指していた。

取り組み
発展
【基本目標1】
(2)-1

●令和6年度、「あお人と自然をつなぐ会」発足



現役子育て世代から80代までが参加して活動目的や理念を話し合う場を持ち、結果、「栗生の自然を活かして多世代が集い、遊び、憩える場所をみんなで作ろう」という活動理念を掲げ、勝尾寺川さんぽグループから地域活動団体として「あお人と自然をつなぐ会」が発足した。



●イベントの企画、実施から、次のステップへ

今年度は、以下のイベントを企画実施し、それぞれ30名前後の参加者が集まった。イベント参加者からの誘いで新たな参加者が増えたり、参加者から企画実施に関わる活動者になったり、少しずつ活動が浸透、広がりが生まれてきている。

- ・「勝尾寺川の新緑で遊ぼう！探そう！集まろう！」(5月)
- ・第3回「勝尾寺川でつながるWA」(8月)
- ・秋の遠足「スサノオノミコト神社へGO！」(11月)



地域の居場所として「栗生みんなの居場所カフェ」が定着



「子どもでも大人でも一緒に過ごし交流できる場の実現」を目指し、「栗生みんなの居場所カフェ」が開始。(令和5年7月) 毎週月曜日午後の「ささえあいステーション」併設カフェとして、幅広い年代の住民が気軽に立ち寄れる場所として定着している。

取り組み
発展
【基本目標1】
(2)-1

●令和6年度はゆるやかな広がり、つながりを目指して

- ・おしゃべりしながらの作業、続けて参加することで顔見知りも少しずつ増え、地域の居場所として認知されつつある。
- ・カフェ利用の子連れママ同士で親しくなるなど、新たなつながりも生まれている。
- ・カフェ利用だけでなく、ささえあいステーションや生活相談窓口でつながった住民が参加し、カフェやサロンで使う折り紙の製作作業等を行う。



とよきたオレンジカフェ（認知症カフェ）の立ち上げ

取り組み
実施
【基本目標1】
(2)-1



●とよきたオレンジカフェの開催(令和6年10月)

東部高齢者くらしサポートと豊川北小地区福祉会で、認知症のかたやその家族、また、認知症に関心のあるかたや福祉専門職など、みんなで認知症の理解を深める認知症カフェを立ち上げた。

【立ち上げ準備】

福祉会の認知症カフェ運営委員が東部高齢者くらしサポートと市の認知症に関する研修に参加し、認知症に関する知識や先行事例から学びを深める。

- ・認知症カフェ研修（令和6年7月）
- ・認知症サポーターフォローアップ研修（7月）
- ・認知症サポーター研修（9月）
- ・認知症のかたへの声かけ体験（10月）



【カフェの様子】

福祉会ボランティア、民生委員・児童委員、東部高齢者くらしサポートを中心に運営。居心地の良いBGM、テーブルには生花と手描きイラストのコースター、また認知症関連の書籍や新聞雑誌記事の展示コーナーがある。実際にカフェ参加者から認知症に関する相談、ささえあいステーション職員への相談からつながった認知症当事者の参加があり、認知症理解と交流の場になっている。



毎月第3木曜日 14:00-15:30

豊川北小会館コミュニティーセンター「鐘の鳴る家」で開催

参加費:お茶代 100円

移動困難者を支えるサービス

取り組み
中断
【基本目標1】
(3)-3

令和4年度ささえあい推進会議で、「間谷住宅の『MJ ちょっとサービス』のような住民同士の生活支援・移送支援サービスを立ち上げられないか」という声があがるが、

＜東生園谷・彩都地域周辺＞
ミーティングポイント：118箇所

「のーと箕面」乗降場所
マップ(東エリア)から抜粋



提供する側のマンパワー不足が課題として挙げられていた。この課題を踏まえ、令和5年度ささえあい推進会議では、高齢者の移送や生活の困りごとをテーマに話し合いの場を設けることとなった。

●令和6年度の動き

ささえあいステーションの職員で、間谷住宅「MJ ちょっとサービス」の利用者(4名)へのヒアリングを実施。移送や生活の困りごとの聞き取りにあわせて、この地域の移送手段の比較、検討などを行っている。

現在は、AI オンデマンド交通「のーと箕面」の実証運行が始まることになり、検討は中断している。



■■■ 東小校区 ■■■

東小校区は人口約 10,300 人、65 歳以上が 34.7%。高齢化率は箕面市では首位。北に行くにつれて坂道が多く、急になる。北部・南東部および南西部には、箕面栗生第 1・第 3・第 4・第 5・第 6・第 7 住宅等の大型の集合住宅があり、戸建て住宅も中心部に多く存在している校区。

取り組み
継続
【基本目標 1】
(2)-1

【居場所①】地域のプラットフォームを目指す「公園で栗生～よ！」

令和 4 年度ささえあい推進会議での「公園を多世代が交流できる居場所に出来ないか」という意見から検討がスタート、令和 5 年 7 月から名称「公園で栗生～よ！」として本格実施。遊びやカフェ、相談コーナーなど多彩な内容の企画に加え、「みのお東・わいわい食堂」開催日に併せて隣同士で実施することで栗生南公園と東生涯学習センターでの人の流れも生まれ、親子連れや高齢者が立ち寄る場となっている。

社協生活相談窓口で関わっている、地域とのつながりを求める住民にも紹介し、実際の参加にもつながっている。



●令和 6 年度は緩やかな継続を目指して負担軽減の取り組み

- ・メンバーの負担軽減を考えて、毎月開催から奇数月開催へ。
(各種コーナーや食堂との同日開催は継続)
- ・実施方法、広報、役割分担など、その都度コーディネーターを中心に打ち合わせの場を持ち、毎回少しずつ内容を変えて実施。それぞれの思いを出し合う話し合いも継続。



【居場所②】移動コミュニティカフェ「お茶の間つどいの会」

「高齢者、子ども、若者、障害者など分け隔てなく集える場所」を目指し、令和 5 年 4 月から東小校区内で参加者が参加しやすい場所を選べる移動コミュニティカフェ「お茶の間えみい」(場所: 東小内ふれあいルーム 1F) がスタート。その後、「公園で栗生～よ」開催に合わせた「お茶の間栗生～よ」にも展開した。

取り組み
発展
【基本目標 1】
(2)-1

●令和 6 年度はさらに 1 か所増やして開催

- ・新たにささえあいステーション (東生涯学習センター 1F ギャラリー) に併設する形で「お茶の間ぎやらりい」を月 1 回開催。
- ・参加者自身が本人の得意な分野を活かした形で役割を担った「製作体験の指導」や「野鳥観察会」の企画など、コミュニティカフェから新たな活動が生まれている。



【居場所③】外国人との交流を目指して

取り組み
難航
【基本目標1】
(2)-1

令和5年度、地域で生活する外国人と地域住民との交流、さらには外国人と地域とのつながり・居場所づくりを目指してコミセンを活用したお茶会を実施。(年2回)



●令和6年度は「着物着付け体験会」を開催(6月)

その発展として、コミセン管理運営委員会の提案で、着付けボランティアによる着物着付け体験会を開催。

【課題】

着付け体験は好評だったが、異なる言語を持つ参加者同士で交流するには共通言語、もしくは通訳がないと難しい。



国際交流協会(MAFGA)と社協ささえあいステーション担当、生活相談窓口担当で、箕面市在住の外国人の現状について、意見交換会を実施(9月・12月)。社協と国際交流協会の共催で、ボランティア養成講座などの開催を検討中。



【居場所④】オレンジ(認知症)カフェの立ち上げ準備

取り組み
検討中
【基本目標1】
(2)-2

●認知症サポーター養成研修を実施(令和6年11月)

東部高齢者くらしサポート×東小地区福祉会で、認知症のかたやその家族、また、認知症に関心のあるかたや福祉専門職など、みんなで認知症の理解を深めるオレンジカフェ(認知症カフェ)の立ち上げに向けて研修会を実施。

【団体連携】「小地域ごと」から「属性ごと」の交流へ

取り組み
発展
【基本目標1】
(3)-1

令和4年度ささえあい推進会議で「集合住宅同士が課題を共有し、意見交換ができる横のつながりをつくれなにか」という意見が出され、令和4年度、5年度に「マンション座談会」を実施。4自治会から会長および役員が参加。

【今後に向けた意見】

「戸建て住宅の自治会でも課題共有や意見交換が必要ではないか？」

「子どもや高齢者の活動団体や事業所でも情報交換ができないか？」



●令和6年度は地区福祉会での意見交換を「小地域ごと」から「属性ごと」に変更

年9回開催している地区福祉会幹事会では毎回、共通テーマ(防災、防犯など)について「小地域ごと」のグループに分かれて意見交換を実施していたが、令和6年度は「子ども」「高齢者」「自治会(集合住宅)」「自治会(戸建て)」といった「属性ごと」に変更。自治会同士や事業所同士でつながりを持つきっかけづくりを進めている。



■■■ 豊川南小校区 ■■■

豊川南小校区は、人口 13,520 人で 15 歳未満 14%、15～64 歳 67%、65 歳以上 19%で、現役世代が中心だが徐々に高齢化が進んでいる。校区内に国際交流協会があり、外国人市民が 900 人以上（市内トップ）居住。大学生も多く住んでいる。自治会を結成していないエリアも多く、自治会加入率は市内ワースト 1。昨年度のささえあい推進会議では、防災・子育て・高齢者というテーマで話し合い、共通の課題として「広報」、「情報共有」、「小さな単位」というキーワードが出た。

地域情報誌「とよみな地域だより」発行！（広報の充実）



「身近な地域活動に多くの人に参加してもらいたい」
地域団体共通の思いから、福祉会が中心となり、校区内の情報をまとめた「地域だより」を作成。
令和 6 年 10 月全戸配布後、地域だよりを見てサロンを訪れる人も。「地域の活動が一目でわかる」と、福祉専門職にも好評。

取り組み実施
【基本目標 1】
(4)-1

福祉専門職と地域がつながる！交流会を開催（情報共有）

- 令和 4 年度以前まで、福祉会理事会（各地域団体が理事として参加）は、各団体の活動報告を行う場として開催。具体的な意見交換する時間までなかった。
- 令和 5 年度は、福祉会理事会の開催回数を減らし、地域団体同士の意見交換会を開催。団体が抱える課題を話し合い、結果「地域だより」を作成することになった。
- 令和 6 年度は、具体的なテーマを設定した団体交流会を開催。地域の活動紹介、福祉専門職の役割紹介、課題と感じていることを出し合い意見交換を行った。

取り組み実施
【基本目標 1】
(3)-1

【テーマ① 高齢者について】

（令和 6 年 8 月開催）

参加：福祉会、民生委員・児童委員、一声訪問員、さわやか会、シニアクラブ、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所、高齢者くらしサポート、ささえあいステーション

認知症のことや高齢者の特性、ご近所での助け合いが薄れていること、業務外の困りごとが専門職に寄せられていることなど課題を共有。



【テーマ② 子育てについて】

（令和 6 年 11 月開催）

参加：福祉会、民生委員・児童委員、主任児童委員、はんもっく、放課後等児童デイサービス、児童発達支援事業所、子ども食堂、幼稚園、保育所、市子どもすこやか室、おひさまルーム、生活相談窓口、ささえあいステーション

地域の取組み、専門職の役割、事業所の取組みを共有。児童発達支援事業所の取組みを地域活動者が知り、「悩んでいるママに伝えたい」という声があがった。



地域と福祉専門職が互いの活動を知り、連携していく必要性を確認する場になった

自治会・地域団体・福祉専門職がつながるために（小さな単位）

取り組み実施
【基本目標1】
(3)-1

【小地域ささえあい会議】

校区内を4つのエリアに分け、自治会同士の交流・自治会と地域団体・自治会と福祉専門職のつながりをつくることを目的に開催（9月下旬～11月下旬の期間に3回）。

＜参加＞ 自治会、福祉会、民生委員・児童委員、地区防災委員会、シニアクラブ、高齢者くらしサポート、生活相談窓口、ささえあいステーション



小野原東4～6丁目エリア



小野原西エリア



小野原東3・5丁目エリア

各自治会の現状や、困りごと、防災の取組みなどを共有し意見交換。地域活動者の想いや、福祉専門職が感じている課題についても共有した。

新たな居場所で、新たな出会いが・・・

取り組み実施
【基本目標1】
(2)-1, 2

【あいあいカフェ】

【日程】第1・3水曜日午後
【場所】多世代地域交流センター

ささえあいステーション併設のコミュニティカフェ。これまで小野原西の多文化交流センターで毎週開催していたが、小野原東エリアからは遠いという声。多世代交流センターで開催することで、近所の高齢者が立ち寄る場になっている。



【哲学カフェ】

【日程】金曜日午後（不定期）
【場所】小野原住宅地集会所

サロンを開催しても参加者が少ない地域。大阪大学名誉教授とのご縁から哲学カフェを実施することに。男性の参加が多く、知的好奇心を満たし、一人一人が語り合える場になっている。



【オレンジカフェ太陽】

【日程】第4水曜日午後（偶数月）
【場所】コミセン太陽の家

認知症の人やその家族、医療・介護の専門職、地域住民等、誰でも自由に参加できる「集いの場」。



取り組み発展
【基本目標3】
(1)-1

中学生の地域活動が熱い！（四中ワンピース）

人権サークルとして地域活動に参加している「四中ワンピース」。夏休み中の「あいあい子ども食堂」を始め、「ふれあい納涼祭」、「敬老のつどい」にもボランティアで活躍。令和6年度は、地区防災委員会のメンバーや福祉施設の職員と「HUG体験（避難所運営ゲーム）」を行い、「災害時、中学生にできること」を一緒に考えた。



■ ■ ■ 萱野東小校区 ■ ■ ■

萱野東小校区は、南北に広く市内で一番面積が大きい校区。人口は市内トップの13,947人で15歳未満14%、15～64歳62%、65歳以上24%。昔ながらの村5地区（白島、石丸、外院、西宿、今宮）では高齢化が進んでいる。一方、北大阪急行線延伸に伴い新駅（箕面萱野駅・箕面船場阪大前駅）周辺では住宅・マンション開発が進んでおり、船場東エリアは今後人口が一気に増加する。

前回会議では、**地域活動者と福祉専門職の連携（高齢者の見守り・認知症の理解）**、外見ではわかりにくい**障害の理解**、**転居者の孤立防止**、**多様なメンバーで防災を考えていく必要性**等の意見が出た。

自治会・地域団体・福祉専門職がつながるために！

取り組み実施
【基本目標1】
(3)-1

令和3年度から開催している「小地域ささえあい会議」。

令和6年度は「石丸・外院エリア」、「西宿3丁目エリア」、「今宮エリア」で、自治会同士**の交流・自治会と地域団体・福祉専門職のつながりづくり**を目的に行い、自治会の悩み、運営の工夫、防災の取組みなど意見交換した。

<参加>自治会、福祉会、民生委員・児童委員、シニアクラブ、高齢者くらしサポート、ささえあいステーション

石丸では消防団の団員不足により消滅危機にあることを共有。西宿3丁目では、近隣自治会同士で防災を考えた方がいい等の意見が出た。今宮エリアでは自治会の参加がほとんどなかったため、「認知症初期の方への関わり」や、これから必要な地域活動について話し合った。

石丸・外院エリア



参加自治会：石丸自治会、青松園自治会、ロイヤルヒルズ箕面自治会

西宿3丁目エリア



参加自治会：西宿住宅自治会、西宿東自治会

今宮エリア



参加自治会：今宮南自治会



膝を突き合わせて話し合う時間を持つことで、まずは「顔見知り」の関係に。

顔が見えていない自治会の参加を増やしていくことが、今後の課題

船場東エリア

今年度は会議を開催する予定ではなかった（昨年度実施したため）が、マンション管理組合理事の方から「近隣のマンション同士横のつながりを持ちたい」との声があり、急遽開催。

<参加>シティゲートタワー千里中央自治会、セーリオ千里中央自治会、ブリッジコートマンション管理組合、ささえあいステーション

開発の状況や、**住民が増えていること**、各マンションにおける**防災の取組み**について意見交換。

「災害が起きたら避難所となる小学校に救援物資を取りに行くことになる。道路が遮断されている状況の中、徒歩で重い水を持って帰ることはできない…中継地点を作ってほしい」という切実な声があった。

地域の防災力を高めるために・・・

取り組み実施
【基本目標1】
(5)-2

●避難所となる小学校の設備を定期的に確認

地区防災委員会では、避難所となる小学校の設備を毎年点検。
令和6年度は、防災倉庫の備蓄品を確認。活用できるマンホールを数え、
トイレの設置訓練を行った。



●家族で学ぶ防災教室

令和5年度から地区防災委員会と市民活動フォーラムみのおが企画。非常時の持ち出しグッズの確認や防災クッキングなど、小学生親子を中心に家族で楽しく防災を学べる内容。令和6年度は2月22日実施予定。



●中学生と「避難所運営」を考える

人権サークルとして地域活動に参加・活躍している四中ワンピース。令和6年度は、地区防災委員会のメンバーや福祉施設の職員と一緒に「HUG体験（避難所運営ゲーム）」を行い、「災害時、中学生にできること」を考えた。



認知症の理解を広げる

取り組み実施
【基本目標3】
(1)-3



【オレンジカフェかやの】（認知症カフェ）

日程：第4水曜日午後（奇数月）場所：みのおキューズモール キューズリビング

主催：中東部高齢者くらしサポート

認知症の人やその家族、医療・介護の専門職、地域住民等、誰でも自由に参加できる「集いの場」。豆から挽いたコーヒーの香りに包まれながら、専門職による講話やゲーム、おしゃべりなどを通して、認知症理解と交流の場になっている。

ささえあいステーションは、より身近な場所で開設

取り組み実施
【基本目標2】
(1)-2

面積が広い校区の特徴をふまえ、誰にとっても「身近な場所」になるよう増設中！

<経過>

- 令和元年度～中東部高齢者くらしサポート内でささえあいステーションを開設。
→ささえあいステーションに来所する住民はほとんどおらず…
- 令和4年度～住民に親しまれているコミセン「灯ろうの家」に場所を移し開設。
- 令和5年度～ステーション開所に合わせて、福祉会が誰でも利用できる「れんげカフェ」を月1回実施。
「相談と交流ができる場」として発展し、認知症をテーマにした集いを開催することも。



<令和6年度>



国道より南側の住民が行きやすいよう、今宮会館でも月1回開設することに。
福祉会・民生委員・シニアクラブが「今宮カフェ」を運営し、健康マージャンをはじめ、会話を楽しむなど交流の場になっている。高齢者くらしサポート職員が、支援している高齢者と一緒に参加することで、新たな出会い・縁も生まれている。

令和7年度～さらに2か所（大阪大学内、西宿南集会所）でステーションを開設する予定！

■■■ 萱野北小校区 ■■■

萱野北小校区は人口約 5,500 人で 15 歳未満 9.5%、15～64 歳 57.0%、65 歳以上が 33.5%となっており、少子高齢化が進んでいる。山麓線より北は集合住宅が多く、南は戸建を中心としたエリア。「認知症になっても暮らしやすい如意谷へ」をテーマに、地域で支えあう取り組みが実施および検討されている。

認知症への理解促進に向けた取り組み

取り組み
実施
【基本目標3】
(1)-3

昨年度のささえあい推進会議にて検討中であった取り組みについて、令和6年度に実施した内容を紹介

●健康づくり教室

地域住民の健康を推進するため、地区福祉会主催で定期的に行っている健康づくり教室を、令和6年度は「認知症」をテーマにして開催した。

【日時】令和6年6月1日（土） 【参加者】27名（スタッフ等含む）

【内容】1. 体験発表 わたしが、意識障害から快復できたのは…地域のふれあいのおかげでした！

2. 講義 中東部高齢者くらしサポート 「皆で学ぼう認知症」



当日の様子

【参加者の声】

- ・大変な体験をされたことが伝わった
- ・当事者が語ることに意味がある
- ・認知症のことは今後も定期的に聞きたいなど

●認知症カフェ「ルミナスオレンジカフェ」

ルミナス箕面の森三番街集会所にて UR コミュニティと中東部高齢者くらしサポートが中心となって認知症の方や家族、地域住民などが集まる認知症カフェ「ルミナスオレンジカフェ」を開催した。

【日時】令和6年9月12日（木） 【参加者】14名（スタッフ含む）



カフェの様子

- 【内容】・認知症について学ぶミニ講座
・参加者同士の交流

今後も定期的な開催を目指しており、カフェの周知方法などこれから地域とどう連携していくか検討中。

●啓発活動ブース

令和6年10月26日（土）、地域行事「山手まつり」にて萱野北小地区福祉会として「啓発活動ブース」を設置。ブースでは中東部高齢者くらしサポート、認知症安心ガイドなどのチラシ配布のほか、認知機能検査（CADi2）を受けられるタブレットを用意し、希望者に体験してもらった。

※認知症カフェ(オレンジカフェ)とは

「認知症」というテーマのもとに誰もが気軽に立ち寄れる場。認知症の人やその家族にとっては安心できる居場所であり、地域住民や福祉専門職にとっては互いに情報交換し、認知症に対して理解を深められる場所。認知症に対する不安や偏見を解消し、参加者同士のつながりを作ることも目的としている。

ささえカフェ・いきいきサロンの新たな可能性を考える

取り組み
検討中
【基本目標1】
(3)-3

令和6年10月、地域で活動しており、ささえカフェにも参加していたかたが体調を崩して参加できなくなっていた。そしてその中でも地域とのつながり（ささえカフェへの参加）を希望されていた。



カフェスタッフ、中東部高齢者暮らしサポート職員、ささえあいステーション職員で「自宅にいたままでささえカフェに参加できる方法」を考えた。

【今回試してみたこと】

- ①オンラインを活用し自宅とささえカフェをつないで本人に参加してもらう
- ②カフェで作ったコーヒーを自宅まで出前する

本人は参加後に「こんな参加方法があるんやな」「すごく良かったわ」と話され、現在再び自力でカフェに行くことを目標に、病院やデイサービスでのリハビリに励まれている。

今回のことをスタッフ間で振り返り、これまでは「カフェやサロンに来ることができない＝つながりが切れる」となっていたが、今後は「つながりを切らさない」方法を考えていくことが大事、という共通認識を持った。

令和6年11月26日 オンライン参加の様子



自宅から参加中



他の参加者も興味津々



コーヒーを出前中

地域内のラックに相談情報を配架

取り組み
実施
【基本目標1】
(4)-1

「地域住民に少しでも情報を届けたい」という萱野北小地区福祉会の声かけで、ルミナス箕面の森三番街集会所のラックにささえあいステーションや高齢者暮らしサポートのチラシなどを配架。

今後、三番街以外の集会所等にも配架先を広げていく予定で、ラックのない自治会等へも新たにラックを設置するなど、配架方法を検討中。



ルミナス箕面の森
三番街集会所のラック

■ ■ ■ 萱野小校区 ■ ■ ■

萱野小校区は人口約 11,000 人で 15 歳未満 14%、15～64 歳 61%、65 歳以上 25%。箕面で 3 番目に古い小学校だが、人口の増加とともに分校を繰り返し、現在は南北に長い校区となっている。戸建てが多い坊島・萱野エリアとマンション建設が進む船場西エリアでは課題が異なる。令和 6 年 3 月に北大阪急行が延伸。新駅 2 駅が新設され、大阪都市部へのアクセスが便利になった。

多様な地域の交流の場づくり

取り組み継続
【基本目標1】
(2)-1

「男性の居場所」や「多世代交流」を目的に立ち上がった交流イベントがそれぞれ継続・発展している。

● 男の料理教室

「妻が入院して食事の用意が大変になった」という声をきっかけに昨年度から開始し、若い世代や料理をしたことがない男性が地域とつながるきっかけの場となっている。今年度は、参加者の要望を取り入れ開催した。

<参加者> 地域住民、福祉会、民生委員、
コミュニティセンター管理運営委員会

<場 所> らいとぴあ 21 調理実習室

<参加人数> 30 代～70 代までの幅広い世代 全 2 回合計 28 名
第 1 回 令和 6 年 7 月 10 日 (水)「夏野菜を使った時短料理」
第 2 回 令和 6 年 11 月 10 日 (日)「家でもできる魚料理」



● 萱野ひろば

大人も子どもも一緒に楽しめる多世代の交流の場として実施し、地域のつながりを広げている。

<日 時>令和 7 年 2 月 9 日 (日)

<内 容>昼食提供 (カレーライス)、ダーツ、
玉入れ、けん玉、トランプなど

<場 所>コミュニティセンター「くすの木の家」

<主 催>福祉会 <協賛>コミュニティセンター萱野小会館



船場エリアでは初開催！！

これまでではらいとぴあ 21 で開催していた「萱野ひろば」を令和 6 年度は船場エリアで開催。「くすのきカフェ」や「いきいきサロン」を利用している高齢者、コミュニティセンターと関わりのある大阪大学の留学生などの参加もあり、地域で暮らす様々な人が交流する機会となった。

● 萱野みんなのフリーマーケット (令和 7 年 3 月 20 日開催予定)

多世代交流の場であり、出展者は地域住民や地域活動グループ、第 2 中学校生徒有志など様々。今年度が 3 回目の開催となり、開催後は今後の方向性についての振り返りを行う予定。

認知症を正しく理解し安心して暮らす

取り組み発展

【基本目標1】
(1)-1-2

●認知症カフェ「ライブラオレンジカフェ」の開催(令和6年3月～)

中西部高齢者くらしサポートが主催。認知症のかたやその家族、また認知症予防に関心のあるかたや福祉専門職の交流と憩いの場所。

毎回7～8名のボランティアが関わり、当事者のかたや認知症に関心のあるかたの事前申込による参加もある。

<日 時>奇数月第4金曜日 14:00～15:50

<場 所>総合保健福祉センター(ライブプラザ)1階アトリウム



●福祉会で認知症の学習会を実施

コミュニティカフェの利用者で、開催場所や時間をよく間違えるなど気になる様子が増えたことをきっかけに、中西部高齢者くらしサポートの協力で認知症についての学習会を開催。地域活動や普段の暮らしの中での「見守り」の必要性を共有。

<日 時>令和6年12月2日 <場 所>萱野プラザ(地域福祉活動拠点) <参 加>23名

令和6年度は、「サロン唐池」「サロンいこい」の中でも、住民向けに認知症の学習会を開催

- ・サロン唐池(唐池会館) <日 時>令和6年6月19日 <参 加>35名
- ・サロンいこい(萱野老人いこいの家) <日 時>令和7年2月13日 <参 加>15名

小学生を対象にした「朝ごはんの会」の検討

取り組み
検討中

【基本目標1】
(2)-1

令和5年度ささえあい推進会議では「親の共働き等もあり、孤食の子どもが増えている」「第二中学校生徒の企画で実施された『朝ごはんプロジェクト』は小学生にも必要ではないか」等の意見があがった。

⇒ その後、関係者に話を聞いたところ…

- ・必要性は理解できても、活動の立ち上げまでの意欲のある中心メンバーがなかなかいないのでは…
- ・そもそもの課題意識の共有から必要ではないか。



紹介

【NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝による子ども食堂(A:HDK)の取り組み】

- ・平成30年から開始。市営住宅集会所にて平日の朝食を月1回水曜7時～8時に提供。
- ・調理ボランティアは、地域の住民や法人のスタッフなど3、4名。
- ・子ども10名程度の利用があり、近所の子どもが誘い合わせて来ている。

■■■ 北小校区 ■■■

北小学校は昭和20年に開校した歴史ある地域。人口6,000人で15歳未満11%、15～64歳57%、65歳以上32%と高齢化は市内3位の校区。阪急箕面駅東側に広がる閑静な住宅街で、建替えや代替わりで新しい住宅も見られる。駅近でスーパーや商店、金融機関、公共施設、病院も多い。箕面文化・交流センターの建替えにより、令和6年から地域活動拠点がなか幼稚園跡地へ変更となった。

箕面2丁目ハザードエリアの高齢者避難を考える

取り組み
検討中
【基本目標1】
(5)-1

- 令和5年度(令和6年1月)ささえあい推進会議での意見・アイデア
 - ・ 箕面2丁目ハザードエリアの高齢者がメイプルホールに避難するには遠い。
 - ・ 避難行動要支援者名簿の活用について話し合う場があれば良い。



『箕面2丁目ハザードエリア』の高齢者の避難について意見交換会を開催

<参加者> 福社会、民生委員・児童委員、敬友会、地区防災委員、自治会、よりそい隊(西江寺)、中西部高齢者くらしサポート、ささえあいステーション
<場所> 西江寺



会議の様子

- 第1回 現状と課題の共有(令和6年12月)
 - ・ 避難指示が出ても自主避難をしなかったり、したくてもできないといった現実がある。
 - ・ 周囲に住んでいる人を互いに知らない場合も多い。
 - ・ 箕面第4自治会では、災害時に避難支援が必要な人の名簿(手上げ式)を独自に作成している。
 - ・ 西江寺を一時避難所にできるといい。
 - ・ 避難所(メイプルホール)の送迎に、のるーと(AIオンデマンド交通)を活用できないか 等
- 第2回 今後の目指す姿について意見交換(令和7年1月)
 - ・ 土砂災害の防災気象情報の警戒レベル3, 4を想定し、「避難」について考える。
 - ・ 実際に西江寺を一時避難所にできるのか、災害備蓄品(防災食、毛布等)の保管可否や対象者の範囲、避難所開設時のアナウンス方法など、具体的に検討する必要がある。行政との調整も必要。
 - ・ 平常からの「顔の見える関係づくり」が大切になる。

- 第3回(令和7年3月開催予定)
 - ①土砂災害時の避難においてより具体的に検討
 - ②災害に備えた平常時のつながりづくりには…?

【箕面2丁目エリアの「ブロック会議」での意見(令和6年12月)】

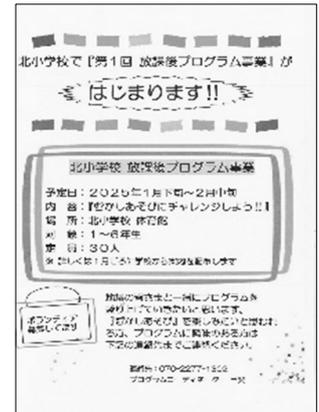
- ・ 足腰が悪い人、杖をついている方が多い印象。病院へ行く以外は、外に出ない方もいる。
- ・ 道を歩いても顔がわからない人がいる。コミュニケーションをとる機会があれば良い。
- ・ 敬老会に参加するにもメイプルホールが遠いとの声がある。メイプルホールは、最終的な避難所ではあるが、一時的にどこかにまとまっていれば、避難物資が届けられる。

子どもとのふれあい（放課後の居場所づくり）

取り組み実施
【基本目標1】
(2)-1

●これまでのささえあい推進会議

「イベントではなく、定期的に地域の大人と子どもがふれあう機会があったらいい」「放課後に子どもが気軽に行ける場として、市の放課後活動プログラムの枠組みを活用できないか」との意見があがる。



●「放課後の居場所づくり」に向けて話し合いを開始(合計5回)

<参加者>福祉会、民生委員・児童委員、青少年を守る会、青少年指導員、コミュニティセンター管理運営委員会、北小学校校長、市放課後子ども支援室、放課後プログラムコーディネーター

- 第1回(令和6年6月) ささえあい推進会議振り返り、市職員からの「放課後活動プログラム」説明
- 第2回(令和6年7月) 「活動者の負担軽減や担い手不足」という活動の課題を解消する手段として、放課後活動プログラムの活用を検討
- 第3回(令和6年8月) 民生委員・児童委員が「かたろうまつり」や小学校の授業で行っている「むかしあそび」を、放課後活動プログラムとして実施することで決定
(まずはプレ開催)
- 第4回(令和6年9月) プレ開催の詳細、広報について検討
⇒ かたろうまつり(令和6年11月)で来場者にチラシを配布
- 第5回(令和6年12月) プレ開催の流れ、役割を確認
⇒ 3学期明けにプレ開催の申込受付を開始

●「放課後活動プログラム」をプレ開催(令和7年1月22日)

<内 容>むかしあそび(こま回し、けん玉、紙飛行機)にチャレンジしよう!!

<参加人数>1～6年 計47名(1～3年生37名、4～6年10名)

<ボランティア>民生委員・児童委員、福祉会、自治会、保護者
けん玉協会 計11名



<今後の検討課題(本格実施に向けて)>

- ・活動の中心メンバーが不在
⇒ プログラムコーディネーターとの調整役が必要
- ・むかしあそび名人やボランティアの呼びかけ、確保

■■■ 中小校区 ■■■

中小校区は国道 171 号線を挟んで南北に長い校区。人口およそ 10,000 人で 15 歳未満 13.5%、15～64 歳 60.7%、65 歳以上が 25.9%。活動は北部に集中しており、南部は集える場が少ない。

地域団体が集まって協議する場「中小校区まちづくりプロジェクト」を起点に、様々な取り組みが実施および発展中。

取り組み
発展

【基本目標1】
(2)-1

さまざまな人が集う場に発展中の「稲つながり畑」

令和 5 年 11 月に地区福祉会主催でスタートした農園活動。令和 5 年度に引き続き、子ども、ミドル世代、そして高齢者と様々な世代が参加する交流の場であり、苗植えの種類から収穫の時期まで全てを参加者同士で相談しながら運営している。

【令和 6 年度 発展ポイント】

- ・グループ LINE の参加者増加（令和 5 年 11 月時点…20 名→令和 6 年 12 月現在…31 名）
- ・社協生活相談窓口の相談者が社会とつながる場（現在 3 名が参加）
- ・収穫した農作物をいろは食堂に提供（カレーの具材等に利用）
- ・参加している子ども達による収穫した農作物の販売体験（売上は畑の維持費等に）



春にみんなで苗植え



秋にはこんなに立派に！



手作り看板の前で記念撮影

地域に根差した「いろは食堂」

取り組み
継続

【基本目標1】
(2)-1

令和 5 年 12 月から地域団体やボランティアが中心となりオープンした地域食堂。主催は「いろは食堂運営委員会」（中小地区福祉会、コミュニティセンター中小会館 管理運営委員会などが参画）。毎月第 3 土曜日、コミュニティセンター中小会館にて開催中。

用意しているカレーライスは 3 か月ごとに作り手が変わり、ボランティア手作りのカレーを楽しむ月と地域の飲食店（箕面ビール、鉄板 Family Dining ころろ）の味を味わえる月がある。「地域とつながり、根差した活動」として継続実施中。



いろは食堂の様子



交流スペースも



子ども服のリユース会も

取り組み
実施
【基本目標1】
(5)-1

地域のみまもり名簿 「中小たすけあい名簿」

地域の災害時対応や見守り体制の強化を検討する中で、「現行の避難行動要支援者名簿では直接、要支援者の思いが確認できない」という意見があり、まちづくりプロジェクト内で検討。地域として本人の意向を聞き取り、災害時対応や平時の見守りなどに役立つ地域発のみまもり名簿を作成することとなった。

【対象者】

令和6年9月1日現在 75歳以上の方（敬老事業対象者すべて）

【方法】

敬老会案内のタイミングを利用。訪問時、直接本人から意向を聞き取る。

【聞き取り内容】

敬老会の出欠に加え、次の事項を確認。

- ・一人暮らしかどうか
- ・避難所まで自力で行けるか
- ・避難所へ連れて行ってくれる人はいるか
- ・「中小たすけあい名簿」に登録を希望するか



地区防災委員会発行の広報誌でも名簿を取り上げる

現在 294 名の方を名簿に登載しており、管理は中小地区防災委員会が行っている。令和7年1月17日の全市一斉総合防災訓練の際には、校区内の各自治会にも協力を仰ぎ、名簿記載者に対して直接訪問しての安否確認を行った。

LINE 公式アカウント「なか小地区福祉会」

取り組み
検討中
【基本目標1】
(4)-1

中小地区福祉会ではホームページを作成するなどの情報発信をしてきたが、より幅広く情報を地域に提供するためにLINE 公式アカウントを作成。令和7年度からの本格的な運用を目指している。



※中小校区まちづくりプロジェクトとは（中小校区まちづくりプロジェクト規約より）
中小校区を安全で安心して暮らせる豊かで住みやすい地域にする活動を実施および支援することを目的とするプロジェクトのこと。
現在は「中小地区福祉会」「中小校区青少年を守る会」「中小地区民生委員・児童委員」「コミセン中小会館管理運営委員会」「中小地区防災委員会」の代表で運営委員を構成している。

■■■ 箕面小校区 ■■■

箕面小校区は人口約 10,100 人。65 歳以上が約 30%で、独居の高齢者も多い校区。西小路、牧落、百楽荘、桜の 4つの地区で成り立っており、校区全体での活動のほか、地区ごとに様々な地域活動が展開されている。令和 5 年度ささえあい推進会議では、「障害者事業所との協働」「高齢者の居場所」「子どもの居場所」の 3つのグループに分かれて話し合い、令和 6 年度はそれらの意見やアイデアをもとに活動を進めてきた。

農園を活用した住民同士の交流の場づくり

令和 6 年 3 月、JA（大阪北部農業協同組合）から社会福祉協議会に、箕面小校区内にある貸農園（ほくちゃん農園／牧落 1 丁目）の一部を地域活動に活用してもらえないかという相談があり、この取り組みが始まった。

取り組み
検討中
【基本目標 1】
(2)-1

福祉会の役員会や運営委員会、そして「農園活動」をテーマにしたテーマ別ささえあい推進会議で活用について検討。なかでもテーマ別ささえあい推進会議（7 月 2 日開催）は、校区内の地域活動団体や自治会等に案内し、関心のあるかたで集まり話し合った。



「畑の世話は大変」「協力はできるが、活動の中心を担うのは難しい」という声もあったが、「まずは、やってみよう！」と、有志でジャガイモとサツマイモを植え付け。



＝サツマイモ堀り＝ 11/6 実施

小学生から 80 歳代のかたまで、そして校区内の障害者事業所の利用者さんなど約 20 人が参加。生活相談窓口が支援しているかたも参加。

＝玉ねぎ・大根・ハーブ植え付け＝

11/20 実施

障害者事業所の利用者さんや地域のかた 6 人が参加。

<参加したかたの声>

様々な世代、状況のかたが参加して、本当に楽しく素敵なひとときだった。



実施してわかったこと

- ・農作業や畑いじりが好きという高齢者がいる。
- ・「農園活動」は障害者、認知症のかたも参加しやすい。

今後の課題

- ・中心となって運営を担う人や団体は？
- ・活動を継続するための資金をどうするか？

障害者事業所との協働

取り組み
発展
【基本目標1】
(3)-1

●ワトワ堂をコミュニティセンターで開催(5月)

障害のあるかたと地域のかたとの交流の機会として開催。高校生ボランティアも参加し新たなつながり誕生!



●敬老事業(福祉会主催)の記念品の熨斗付け(8月)

昨年に引き続き、障害者事業所「和と話」に依頼。熨斗つけだけでなく手書きで一言あいさつも書いてもらった。

⇒社協の生活相談窓口で支援しているかたもボランティアで参加。



●福祉会主催で研修会

「障害者福祉について考える」を開催(1月)

校区内で障害者のグループホームを運営しているNPO法人プラスWeの細谷さん、ホーム利用者から普段の様子についての話を聞いた。



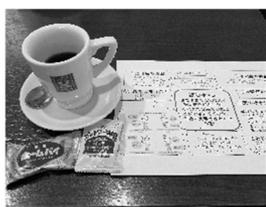
<参加したかたの声>

- ・近所にグループホームがあることを初めて知った。
- ・「障害のある人は苦手なことが多い。でも得意なこともある」ということなるほどと思った。

認知症の理解を深める場 オレンジ10番カフェ

取り組み
実施
【基本目標1】
(2)-1、2

市役所前の喫茶店「café de 10番」の協力により令和6年10月にプレオープン、その後2か月に1度開催。毎回、認知症に関するミニ講座と雑談、薫り高いコーヒーにホッとするひとときが過ごせる場に!



<取り組みの背景>

- ・高齢男性には「集まる」以外の目的が必要
⇒認知症(学び)カフェのアイデア。
- ・高齢者くらしサポートが中心となり、市内で認知症カフェの取り組みが進んでいた。
- ・お店は、よりそい隊登録事業所で普段から社協つながっており、店長が地域貢献に関心あり。

子ども食堂を活用した 若者の参加の場づくり

取り組み
実施
【基本目標3】
(1)-2

コミュニティハウス日にち日にち好え日っの子ども食堂で調理や配膳などのボランティアをしているのは生活相談窓口で支援しているかた。少しずつ人と関わる活動に参加しているとのこと。



<取り組みの背景>

- ・箕面小校区を含む西側エリアは、生活相談窓口へのひきこもり相談が多く、特に20~30代の女性からの相談が多い。
- ・令和6年4月からコミュニティハウス日にち日にち好え日っでも、ささえあいステーションを開設した。

■■■ 西小校区 ■■■

西小校区は、戸建て住宅が中心のエリア。人口は13,347人で市内3番目。高齢化率は27.8%で独居高齢者、要介護・要支援認定者が1番多い校区である。だが校区全体で見ると子育て世代も多く、様々な世代が居住している。令和5年度のささえあい推進会議では高齢者と子どもをテーマに話し合い、特に令和6年度は認知症に関する取り組みが進んだ。

認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して

取り組み
実施
【基本目標3】
(1)-3

● 認知症の正しい知識の普及

西小地区福祉会主催で認知症サポーター養成講座を開催。講師は西部高齢者くらしサポートの職員が担当した。参加者からは、「認知症のことがよくわかった」「これからの介護に活かしたい」などの感想があった。

- 第1回 令和6年5月27日 35名
第2回 10月1日 15名
第3回 11月7日 15名

<きっかけ>

西小校区は、要介護認定において認知症自立度Ⅱ以上の割合が一番多いことを『第9期箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画』で知り、福祉会として認知症への正しい理解を広げる計画を立てた。

● 「オレンジにいなカフェ」開催(令和6年7月～)

西部高齢者くらしサポート主催で「オレンジにいなカフェ」(認知症カフェ)を開始。認知症の人やその家族、地域の人、医療や介護の専門家など誰でも参加できる交流の場で、カフェ・タイムや介護、認知症の学びの機会にも!

<概要>

- 開催日時：奇数月 第3火曜日
場所：そんぼの家 箕面(新稲5-16-50)
※原則、事前申込制。参加費100円
連絡先：そんぼの家箕面(072-720-7464)
西部高齢者くらしサポート
(072-720-5592)

<課題>

認知度がまだ低く広報が課題である。



講座受講中

<工夫・課題>

広く住民に知らせるために、2回目と3回目の案内は、5社の新聞折込約5000枚行ったが、折込からの申込は数名であり、広報の仕方に課題が残った。



オレンジにいなカフェ

認知症があっても活躍できる場

「こどもサロン未来」(福祉会主催)では、茶道の先生がボランティアでお茶をたててくれ、子ども達に大人気。実はこの方はMCI(軽度認知障害)で毎回活躍している。



取り組み
検討中
【基本目標1】
(5)-1

小さなエリアから防災を考える

「防災」については、全市一斉総合防災訓練が実施され、地区防災委員会では、避難所運営について話し合われたり、各自治会で安否確認（黄色いハンカチ）が行われている。

令和6年度は、より小さなエリアから防災について考える動きが桜ブロック（桜1～3丁目）から始まった。

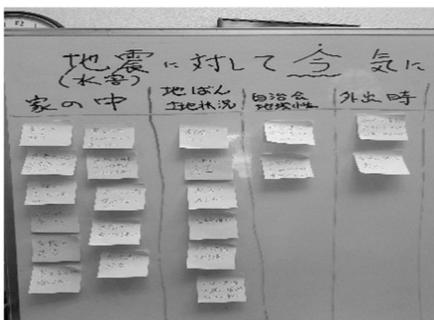
きっかけ①

福祉会桜ブロックの役員から「地震発災後、ブロック塀が倒壊しても安全に避難することができるのか」との疑問があがり、桜ブロックの役員・幹事で話し合いを開始。

（10月）

<第1回目>桜在住の一級建築士から建物の耐震基準について学ぶ。

<第2回目>地震や水害について疑問や不明なことを出し合う。



きっかけ②

今年度、箕面市社会福祉協議会では、小学校区よりも小さなエリアでの話し合いを進めており、西小校区では桜ブロックを対象に、10月26日に開催した。

<目的>自治会と福祉会の顔の見える関係づくり。防災の取り組みについても話題に。



これまで福祉会の課題であった自治会との連携が進み、桜ブロックで防災をテーマに自治会と福祉会、民生委員・児童委員、福祉専門職が協力し合い、ブロック塀が倒壊しても安全な避難経路を確保する方法などについて話し合うことに。（令和7年2月開催予定）

楽しく子どもが集える 居場所づくり

「こどもサロン未来」は継続して月1回開催。定員オーバーになる月もあり、新たなボランティア募集中。



取り組み
継続
【基本目標1】
(2)-1

西小地区福祉会 ホームページを開設

住民に活動を知ってもらい次世代につなぐため、西小地区福祉会のホームページを立ち上げた（8月）。福祉会だけでなく、他の地域団体の情報発信も目指している。



取り組み
実施
【基本目標1】
(4)-1

■■■ 南小校区 ■■■

南小校区は人口 9,830 人、内 65 歳以上が 3,088 人 (31.4%)、75 歳以上が 1,808 人 (18.4%)。全体的にマンションは少なめで戸建て住宅が多い地域。

令和 5 年度のささえあい推進会議は「防災」をテーマに意見交換した。その後、「マンション自治会交流会」や「小地域ささえあい会議」を開催し、近隣のつながりづくりについて話し合ってきた。

小地域ささえあい会議

取り組み
実施

【基本目標 1】
(3)-1

【小地域ささえあい会議開催までの経緯】

令和 5 年度ささえあい推進会議をきっかけに、「マンション自治会交流会」を開催 (令和 6 年 3 月と 8 月)。「高齢者が増え、担い手が不足し活動が難しい」、「地震などの災害時に、避難などで助けが必要なかたがどのくらいいるのか把握したい」、「近所の自治会やマンションと交流する機会があればいい」などの意見が出た。



令和 6 年度、社協全体で小学校区よりも小さなエリアでの話し合いを進めていたことから、福祉会、民生委員・児童委員、高齢者くらしサポートなどと相談しながら南小校区を 3 つのエリア (右図) に分け「小地域ささえあい会議」を開催した。
(令和 6 年 9 月~10 月)



桜井北エリア

(9 月 27 日)

【参加者】4 自治会、福祉会、民生委員・児童委員の計 12 名。

【内 容】「高齢化が進み自治会活動が難しくなっている」「以前は近隣の掃除をしながら気軽にあいさつをして地域の交流が日常的に行われていたが、高齢者だけでは清掃活動をするのがしんどくなっている」といった意見あり。

→後日、桜井第一自治会を中心に話し合い、「近隣高校に協力を依頼しよう」「周辺自治会にも参加を呼びかけ定期的に清掃活動を実施しよう」という意見が出て、11 月 9 日(土)桜井北エリアの自治会と箕面自由学園高校が協力して清掃活動を実施した。



清掃活動の様子

今後も、桜の散る春頃や、落葉が多い秋頃などに、清掃活動を実施できないか、桜井周辺の自治会同士で話し合いを続けていくということです。

■■■ 西南小校区 ■■■

西南小校区は人口 12,693 人、内 65 歳以上が 3,604 人 (28.4%) で、戸建て住宅だけでなく団地や大型マンションが混在するエリア。

令和 5 年度のささえあい推進会議は「防災」をテーマに意見交換。その後、「マンション自治会交流会」や「小地域ささえあい会議」を開催し、近隣のつながりづくりについて話し合ってきた。

取り組み実施

【基本目標 1】

(3)-1

小地域ささえあい会議

【小地域ささえあい会議開催までの経緯】

令和 5 年度ささえあい推進会議をきっかけに、「マンション自治会交流会」を開催。(令和 6 年 3 月と 8 月)。「高齢者が増え、担い手が不足し活動が難しい」、「地震などの災害時に、避難などで助けが必要なかたがどのくらいいるのか把握したい」、「近所の自治会やマンションと交流する機会があればいい」などの意見が出た。



令和 6 年度、社協全体で小学校区よりも小さなエリアでの話し合いを進めていたことから、福祉会、民生委員・児童委員、高齢者くらしサポートなどと相談しながら西南小校区を 4 つのエリア (右図) に分け「小地域ささえあい会議」を開催した。(令和 6 年 9 月)



瀬川北エリア

(9 月 14 日)

【参加者】7 自治会、福祉会、民生委員・児童委員の計 10 名。

【内 容】それぞれの自治会でやっている防災の取り組みについて共有。

→1 月 17 日の全市一斉総合防災訓練に積極的に参加し、顔を合わす機会を増やし、地域で協力してできる防災啓発活動などを考えていくことになった。

瀬川南エリア

(9 月 13 日)

【参加者】3 自治会、2 マンション管理組合、

高齢者くらしサポート、福祉会、民生委員・児童委員の計 8 名。

【内 容】勾配の急なエリアは移動が難しく、外出機会が減ってきている高齢者がいることを共有。気軽に参加しやすい場所が近くにあれば外出のきっかけになるという意見あり。

→後日、エリア内の 4 自治会でコミュニティカフェの見学に行った。

今後、瀬川南エリアでも近隣住民が気軽に立ち寄れる交流の場を考えていくことになった。



瀬川北エリアの話し合いの様子

半町南エリア

(9月29日)

【参加者】3自治会、福祉会、民生委員・児童委員の計10名。

【内容】福祉会サロン、コミュニティカフェ、認知症カフェ、哲学カフェ、宿題カフェなど、様々な地域活動が始まっていることを共有。

→後日、西南図書館で再度集まり、急勾配のエリアで災害時の避難の際にサポートの必要な住民がどのくらいいるかを把握するために、定期的に交流会を継続して近隣の顔見知りを増やしていくことになった。



半町南エリアの話し合いの様子

半町北エリア

(9月20日)

【参加者】3自治会、高齢者くらしサポート、福祉会、民生委員・児童委員の計11名。

【内容】校区平均の高齢化率28.3%に対して半町3丁目周辺は約35%と比較的高い高齢化率であることを共有。高齢になるほど外出する頻度が減ってきているという意見あり。

→後日、高齢者くらしサポートですでに開催されている他のコミュニティカフェや「にこにこカフェ(下記参照)」の見学に行き、エリア内のマンション集会所を活用して高齢者が気軽に集まれる地域の交流の場をつくれぬか話し合いを続けていくことになった。

にこにこカフェがオープン

R5年度ささえあい推進会議で「だれもが気軽に寄れる憩いの場所が必要」という意見があり、福祉会の一声訪問員を中心に話し合いを進めた。

「一声訪問活動をしながらかたには出かける先を案内していこう」「楽しくおしゃべりできて、知り合いが増えるような場所をつくろう」「地域情報を交換できて、必要に応じて民生委員を紹介できるような場所にしていこう」と準備を進め、R6.4月にオープン。



日時…毎月第一木曜日 9:30~11:30
場所…西南生涯学習センター
主催…西南小地区福祉会

取り組み実施

【基本目標1】
(2)-1

毎回40人ほどの参加者で盛り上がっています。

西南地域団体交流会で地域活動を情報発信

R4年度のささえあい推進会議で「校区内の地域団体で情報交換し合い、地域活動を活発化させていきたい」という意見があり、R5.7月、11月、R6.5月、11月に開催。「福祉会だより」、「福祉会ブログ」、「ためまっぷ」などで校区内の地域活動を情報発信していくことになった。



福祉会だより

取り組み継続

【基本目標1】
(4)-1



ためまっぷ

■■■ 止々呂美小校区 ■■■

止々呂美小校区は令和6年3月時点で人口6,004人。農村地域の止々呂美エリアは人口290人、高齢者世代が中心で高齢化率が約50%。一方、平成19年から宅地開発された森町エリアは人口5,714人で校区人口の95%を占め、子どもや現役世代が中心である。令和5年度のささえあい推進会議では、子どもの見守りや居場所、止々呂美エリアの高齢者のニーズ把握についての意見があり、令和6年度はそれらをもとに活動を進めてきた。

子どもの居場所づくり

昨年度のささえあい推進会議で、「遊べる場所が少なく、家の周りで遊ばせてしまう」「親は共働きで放課後の子どもの見守りができない」などの意見があり、子どもの居場所づくりについて検討した。

●卓球で多世代交流

福祉会主催で令和6年9月から森町自治会館で開始。2ヶ月に1回土曜日、無料で誰でも参加できる。子どもから高齢者まで参加者の幅も広く、毎回10名程度の参加あり多世代交流の場となっている。

「森町自治会館にある卓球台を活用したい」と思っていた自治会と、「地域の子どもと大人が交流できないか」と思っていた福祉会の思いが一致したことから実現した。



ラリーが続く孫世代との対決

●さらなる居場所づくりに向けて



話し合いの様子

青少年を守る会から、「新しい子どもの居場所として『子ども食堂』ができないか」と福祉会に提案があり、青少年を守る会、福祉会、学校、社協職員で話し合いを開催。子ども食堂開催に向けて実行委員会メンバーを3月から募る方向となった。

参加者から運営スタッフへ

福祉会主催の子育てサロン「森の子の広場」では、ヨガやベビーマッサージ、趣味活動などを通じて子育て世代の交流を図っている。参加者同士のつながりが深まる中で、「誰かの支えになりたい」と参加者から運営スタッフになる方も。運営スタッフが積極的に呼びかけることで、新たな担い手を増やしている。

日時：第2・4水曜日 13:00～15:00

場所：箕面森町ピースガーデンコミュニティハウス

参加費：活動内容により実費



振る舞い餅づくり

取り組み
実施
【基本目標1】
(2)-1

取り組み
発展
【基本目標3】
(1)-2

止々呂美エリアの高齢者のニーズ把握

取り組み
実施
【基本目標1】
(3)-2

昨年度のささえあい推進会議では、「止々呂美エリアは『顔の見える関係』ができているので、あえて集いの場を作る必要性は感じない」の声があった一方、「月1回くらいは集まる場があってもいい」との声もあり、今年度は止々呂美エリアの地域ニーズを知るための取り組みを進めてきた。

●コミュニティカフェ「とどろみカフェ」

昨年度のささえあい推進会議での「高齢者が集える場所があってもいいかも」との意見から、令和6年5月に上止々呂美自治会館で福祉会主催「とどろみカフェ」を開催。その後、月1回定期的に開催しており、80歳代を中心に、歩いてくる方、家族送迎の車で来られる方など十数名の参加がある。



とどろみカフェ

日時：第3日曜 14時～16時
場所：上止々呂美自治会館
参加費：100円

●止々呂美エリアのニーズは？

令和6年11月に止々呂美エリアで、自治会長、福祉会、民生委員・児童委員、高齢者くらしサポート等8名が参加し、止々呂美エリアの高齢者のニーズについて話し合った（小地域ささえあい会議）。その後、会議の中で話題にあがった高齢者が集まる場をささえあいステーション職員が訪問し、参加者の声を聞き取った。



小地域ささえあい会議

[小地域ささえあい会議参加者の声]

- ・男性の高齢者が外出している姿をほとんど見ない。閉じこもっているのかもしれない。
- ・運転免許を返納したら大好きな畑も朝市も家族の送迎が無いと行けなくなる。
- ・昔は祭りの後に住民が集まり、飲みながら政治のことなど色々な話をして楽しかった。今は、それも無くなってしまった。
- ・止々呂美で何か新しいことをするには、森町の力が必要だと思う。
- ・亡くなってはじめて病気だったことがわかる。ご近所同士些細なことでも相談できる、緩やかなつながりが必要だと思う。

[ふれあい朝市参加者の声]

- ・朝市に行くと皆に会える。
- ・自身の健康づくりのために野菜を作っている。
- ・身体が悪くなり、朝市に出店できなることに不安を感じる。



ふれあい朝市の様子

[青龍寺三十三観音参り参加者の声]

- ・毎月のお参りで会い、世間話をする事で近況が聞ける。
- ・参加することが安否確認になっている。

～聞き取りから見えてきたこと（課題）～

- ・免許返納後の移動手段の確保
- ・住民ができる訪問型の取り組みは？
- ・止々呂美・森町両エリアの交流の仕掛け（イベント企画など）

